



UNIC Tokyo Dateline UN

June 2002 Vol.32

国際連合広報センター

International Year of Ecotourism

ミナミハンドウイルカ。通年見られるイルカと
ドルフィンスイミングが行われている【写真
提供・小笠原ホエールウォッチング協会】



「国際エコツーリズム年」記念シンポジウム UNハウスにて開催されます

国連広報センターと財団法人 五井平和財団は7月29日（月）、東京・渋谷の UN ハウスにて「国際エコツーリズム年記念シンポジウム」を開催します。

国連は、より多くの人々に観光に持続可能な開発の視点を取り入れてもらおうと、今年2002年を「国際エコツーリズム年」と定めています。「エコツーリズム」とは地域の自然や文化への理解を深め、そのよりよい保全とゆとりある活用により、みずみずしい観光と産業を持続的に発展させるための地域運営の仕組みを目指すもので、現在、世界的にも多くの地域において奨励されています。またエコツーリズムの考えに沿った「エコツアー」は、訪れた地域の自然や伝統文化を楽しみながら体験し、理解を深めることができることもあり、近年人気が高まっています。

今回のシンポジウムは、5月にカナダ・ケベックで開催された国際エコツーリズム年最大のイベントである「ワールド・エコツーリズム・サミット」の報告を行い、この国際年の意義やエコツーリズムに対する理解を広めることを目的としています。さらに、エコツアーから得られる教育効果や地域貢献を紹介し、今後のさらなる取り組みやエコツアーへの参加を呼びかけます。

なおUNギャラリーでは7月23日（火）から30日（火）まで、日本国内および海外でのエコツーリズムの取り組みに関するパネル展示を行います。

シンポジウムへ参加ご希望の方は
<http://www.unic.or.jp/>
をご覧ください、FAXにて当広報センターへお申し込みください

INSIDE

国際エコツーリズム年記念シンポジウム	2-3
持続可能な開発に関する世界サミット (=ヨハネスブルク・サミット) 5つの重要分野	4-5
人類の未来へ 新たな出発点 アナン国連事務総長メッセージ	5
第56回国連総会議長、来日 国連大学にて講演会を実施	6-7

<http://www.unic.or.jp/>

International Year of Ecotourism

2002 国際エコツーリズム年



コアホウドリ。鴛島に冬期に繁殖のため飛来する【写真提供・小笠原ホエールウォッチング協会】



近年、人気が高まっているエコツアー【写真提供・オーシャンファミリー事務局】

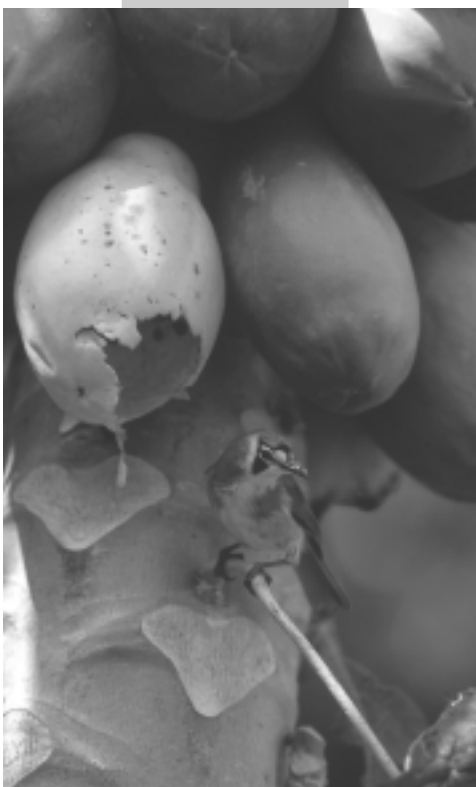


最近よく耳にする言葉に「サステナビリティ(sustainability)」という英語があります。日本語では「持続性」とか「持続可能性」と訳されています。なにごとにも、使いきってしまうのではなく、次の世代の人たちも使えるように、減らさず、壊さず、汚さず、使うようにしようという考え方を「エコツーリズム」と呼んでいます。

観光は一見、減らしたり、壊したり、汚したりするものではないように見えます。しかし実際には、観光開発が自然を破壊し、地域の人々の暮らしや文化を大きく変え、結果的に観光客にとって好ましくない状態を作り出している例は枚挙にいとまがありません。

近年、観光業は世界中でダイナミックな産業になっていますが、一方、その観光が直面している課題は、自然環境や文化遺産など壊れやすい観光資源を保護することです。各地域や開発途上国がそれぞれの自然環境や文化資源をもっと上手く生かしていかなければなりません。観光客が無制限に流れ込めば、その地域の自然や社会の安定が傷つきかねないのです。

1992年ブラジル・リオデジャネイロで行われた「地球サミット」から10年経つ今年の8月末、持続可能な開発の達成における成果と課題を再検討するために南アフリカのヨハネズブルクで「持続可能な開発に関する世界サミット」が開催されます。エコツーリズムを推進することは、貧困を克服し消費のパターンを変えるという目標に貢献することができると思われています。



母島のメグロ。地球上で母島にしか生息しない特別天然記念物。母島では普通に見られる【写真提供・小笠原ホエールウォッチング協会】

「国際エコツアーリズム年」記念シンポジウム・プログラム

2002年7月29日(月)13:00スタート

UNハウス3階 ウ・タント国際会議場

13:00-13:10 オープニング

主催者挨拶 国際連合広報センター所長 高島肇久
財団法人 五井平和財団理事長 西園寺裕夫

13:10-13:50 基調講演「国際エコツアーリズム年の取り組み

—ワールド・エコツアーリズム・サミット報告—
エコツアーリズム推進協議会会長 愛知和男

13:50-16:20 事例発表(発表は各40分+質疑応答10分)

13:50-14:40 「環境教育と海洋型エコツアー」

ジャック・T・モイヤール(海洋生物学者)

14:40-15:30 「森林の保全管理とエコツアーリズム—教育旅行への試み」

下村彰男(東京大学大学院教授 森林科学専攻)

15:30-16:20 「エコツアーと地球社会理解

—マレーシア・サバ州のケースから—

山下晋司(東京大学大学院教授 文化人類学専攻)

主催：国際連合広報センター、財団法人 五井平和財団

共催：エコツアーリズム推進協議会

後援：国際連合大学、外務省、環境省、国土交通省、総務省、
農林水産省、文部科学省、東京都教育委員会(予定)

協力：日本生態学会、日本生物教育学会、日本環境教育学会、
日本生物教育会、東京都高等学校理科教育研究会、
東京都中学校理科研究会、東京都小学校理科研究会



ムニンノボタン。小笠原の代表的な稀少固有植物【写真提供・小笠原ホエールウォッチング協会】

は せ が わ す け ひ ろ

長谷川祐弘氏が

東ティモール

国連ミッション副代表に



5月20日、就任宣誓式にのぞむ東ティモール政府のメンバーたち

前国連開発計画=UNDP駐日代表の長谷川祐弘氏が、このほど東ティモール国連ミッション副代表兼UNDP東ティモール常駐代表に任命されました。

長谷川氏は1942年生まれ。ミシガン大学政治学部卒業後、国際基督大学で国際行政学修士、ワシントン大学にて国際関係学博士号を取得。1969年より国連開発計画でプログラム・オフィサーとして勤務し、以後、ネパール(1978-80)、インドネシア(1980-84)、サモア(1984-86)、国連ボランティア計画(UNV)ジュネーブ本部(1987-94)、国連ソマリア平和維持活動政策企画部長(1994)、ルワンダ国連常駐調整官、国連人道援助活動調整官、UNDP常駐代表(1995-96)、UNDPニューヨーク本部アジア太平洋局次長(1996-99)、UNDP駐日代表(1999-2002年3月)を歴任。



1) 母なる大地 (ベトナム)【Photo by Ngoc Thai Dang / UNEP】
2) ジャンプするホッキョクグマ (ノルウェー)【Photo by Hinrich Baesemann / UNEP】

5つの主要分野 — Water (水)、Energy (エネルギー)、Health (健康)、Agriculture (農業)、Biodiversity (生物多様性) — は各々の頭文字を取って、**WEHAB**と覚えることができます。国連事務総長は、「これは **We inhabit the earth** (私たちは地球に住む) の略だとも考えられます。あるいは **We must rehabilitate our one and only planet** (私たちはこのかけがえのない地球を再生させなければならない) の略だと考えてもいいでしょう」と述べ、8月26日にヨハネスブルクでサミットが開かれるまでの間に、この略語が「標語のように」に用いられるよう勧めています。

この5つの分野に焦点を絞ることによって、ヨハネスブルク・サミットは地球環境を保護しながらすべての人間がよりよく暮らせるようにするための現実的な手段を定める野心的な、しかしながら達成可能なプログラムを創出することができます。事務総長は、「5つの分野で前進することができれば、自分たちが生きている間だけではなく、子どもや孫たちも享受できるような繁栄を実現するチャンスが生まれるでしょう」と述べています。

「持続可能な開発に関する世界サミット」では、世界の指導者、市民活動家、財界の代表たちが一堂に会し、地球に暮らす現在および将来のすべての住民が一定水準の生活を維持していくにはどうすればよいのかについて話し合います。



ヨハネスブルク・サミットのロゴマーク

政策決定過程の中では、紛争、グローバルイゼーション、最近ではテロリズムといった差し迫った問題に押され、持続可能な開発という問題がかすんでいるという印象があります。しかし、ヨハネスブルク・サミットは、1992年にリオデジャネイロで開催された「地球サミット」で生まれた勢いを取り戻すチャンスを人類

持続可能な開発 世界サミット

8月26日から9月4日にかけて「持続可能な開発に関する世界サミット (World Summit on Sustainable Development)」が南アフリカ共和国のヨハネスブルクで開催され、エネルギー、健康、農業、生物多様性という5つの分野の分野となります。同サミットに関する詳しい内容は

に与えてくれるでしょう。

人類のおよそ20%のみに特権と繁栄をもたらしている現在の開発モデルは、地球環境を悪化させ、資源を枯渇させるという重い代償を私たちに強いています。これによって、これまでとは違った新たな努力が必要となっています。しかし、世界的な金融と経済に関する話し合いの場では、環境の問題はいまだに歓迎されざる客として扱われているのも現状です。

大量消費のライフ・スタイルは、自然生命を支える地球が持つシステムに重荷を負わせ続け、貧困の問題に関する研究と開発には十分な資金も関心も向けられていません。先進国は、自分たちの環境を保護し、開発途上の世界が貧困と闘うのを手助けするというリオデジャネイロでの約束をどちらも「十分に実行していない」とアナン事務総長は指摘しています。これは、「環境」対「開発」、あるいは、「エコロジー」対「経済」という図式で解決されるべき問題ではありません。これらは互いに統合することができる、とアナン氏は強調しています。

開発に関する ミット

に関する世界サミット（The World Summit for Sustainable Development）が開かれます。このサミットでは、水と衛生設備、エネルギー、農業、健康、生物多様性が、具体的な成果をあげることが期待される重要な分野です。詳しくは <http://www.johannesburgsummit.org/> をご覧ください。

Water Energy Health Agriculture Biodiversity

ヨハネスブルク
サミット
5つの重要分野

水 — きれいな飲み水を手にすることができない少なくとも10億人の人々と、適切な衛生設備をもたない20億人の人々に、それらへのアクセスを提供する。

エネルギー — 現代的なエネルギー供給サービスを受けていない20億人以上の人々にそれらへのアクセスを与える。再生可能なエネルギーを促進する。過剰消費を減らす。気候変動に対処するための京都議定書を批准する。

健康 — 有毒および有害な物質の影響に対処する。毎年300万人の命を奪っている大気汚染を削減する。汚染された水および衛生設備の不足に原因があると考えられているマラリアとアフリカのギニア虫症の発生を削減する。

農業生産性 — 世界の農業用地のおよそ3分の2に影響を及ぼしている土地の浸食作用をくいとめる。

生物多様性と生態系の管理 — 世界の熱帯雨林とマングローブのおよそ半分を破壊し、世界のさんご礁の70%に悪影響を及ぼすことで世界の漁業に打撃を与えている状況をくつがえす。



2

人類の未来へ 新たな出発点

コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

過去2世紀以上にわたり、人々の生活水準は著しく改善され、一部の人は、人間に対する自然の限界が克服されたと信じるようになった。しかし、膨れ上がった人口や誰もが抱く繁栄を享受したいとの自然な欲求、さらには、前例のない規模で行われているエネルギーや資源の浪費などで、今や私たちは（見通しのない）未知の領域へと入り込んでいる。

大多数の人々が貧困にあえぎ、みじめな生活を営むなかで、人類の5分の1の人々だけが無制限に繁栄を享受できるとか、環境破壊の生産・消費行動が長続きする繁栄をもたらすなど、もはや思い描いてはならない。

この問題は、「環境」と「発展」、または「エコロジー」と「エコノミー」の対立ではない。いかにして、両者を統合していくかということなのだ。

10年前、ブラジル・リオデジャネイロでの「地球サミット」で、この苦境からの脱出策を見いだしたと思った。しかし、その後の進展は私たちの期待を裏切り、特に、先進国は環境の保護や開発途上国の支援という約束をいまだに果たしていない。

私たちはこれを改善する新たな機会を得た。今年8月、南アフリカ・ヨハネスブルクで開かれる「持続可能な開発に関する世界サミット」である。

もちろん、1つのサミットだけで歴史は変わらない。しかし私たちが変革へのはっきりとした誓約を行い、水、エネルギー、健康、農業、生物の多様性の維持の5つの分野で新たな提唱を行えば、サミットは転換点になる、と私は信じる。

私たちにはすでに技術があり、適切なインセンティブ（刺激策）を与えるならば、これらの5つのすべての分野で、今すぐにもできることがある。知識は常に私たち人類が発達する鍵であり、また持続可能な発展の鍵でもある。

私たちの子や孫がきちんとした生活を送るという希望を持つならば、私は、このサミットの目標こそが、重要かつ達成可能な出発点であると信じている。

（本文は 6月7日の毎日新聞に掲載された寄稿文を転載したものです）

グローバル化する世界における国連の役割

第56回国連総会議長が来日、国連大学にて講演会を実施

第56回国連総会の議長を務めるハン・スンス氏（韓国）が、外務省の招待で5月27日から4日間の予定で東京を訪れました。ハン氏は滞在中、小泉純一郎総理大臣および川口順子外務大臣との会談、国会議員との懇談、UNハウスでの講演、以前教鞭をとっていた東京大学教養学部の訪問、プレス・インタビューなどを行いました。



UNハウスでの講演会にのぞむ第56回国連総会議長、ハン・スンス氏【写真・国連大学広報部】

Nations in a Globalizing World)」と題したUNハウスでの講演のなかで、総会議長は昨年9月11日以来、国連総会はテロ対策そのものだけではなく、テロの根源となっている世界各地の貧困を撲滅する努力を強めており、総会の役割は近年さらに強化されていることを指摘しました。

全保障はただ武力のみで得ることはありえなく、『人間の安全保障』という観点からより包括的に求められるべきです」と強調しました。また、日本政府がそのような国連のアプローチに大きな支援を行い、積極的にイニシアチブをとっていることに対して感謝の意を表しました。

ハン氏は韓国の重要な公職を歴任し、最近では外交通商長官としていわゆる「太陽政策」の推進に中心的な役割を果たしました。1996-97年に副首相および財務経済長官を務め、ハイテク銘柄主体のKOSDAQ株式市場を発足させました。

「グローバル化する世界における国連の役割（The Role of the United

Nations in a Globalizing World）」と題したUNハウスでの講演のなかで、総会議長は昨年9月11日以来、国連総会はテロ対策そのものだけではなく、テロの根源となっている世界各地の貧困を撲滅する努力を強めており、総会の役割は近年さらに強化されていることを指摘しました。

UNハウスのウ・タ

ント会議場に集まった約200名の聴衆を前にして、ハン・スンス氏は「安



Aquatic Tales



A Moment of Silence

「水—世界の鏡」写真展の作品は国連ジュネーブ事務局に勤務する国連職員、セルジオ・ダ・シルバ氏が撮影したものです。同展示は5月21日から6月14日まで開催されました

UN ギャラリー



UNギャラリーを訪れたハン・スンス総会議長（右）と作者のセルジオ・ダ・シルバ氏

講演終了後、総会議長はUNギャラリーにおいて、写真展「水—世界の鏡」のオープニング・セレモニーに参加しました。この写真展は2003年が国際淡水年に指定されていることから、80枚の水に関連した写真を通して、命の源である「水」を改めて見つめ直すことを訴えるために開催されたものです。

水の美しさ、輝き、神秘を写し出した作品の数々に、多忙なスケジュールをしばし忘れてリラックスした総会議長の表情が印象的でした。

国連総会議長の講演から（抜粋）

グローバルな問題が発生し、グローバルなレベルでの国際的な対応がますます重要になってきました。多くの加盟国からなる国連は、包括的に議題を扱う実存する唯一の国際機構です。そのため、自然と国連はグローバルな問題に取り組む国際的な努力の中心となっていきました。

国連が持つ代表として、また、普遍的な存在としての性格はその加盟国数のみならず国連憲章にある目的と原則のなかに見ることができます。国連の創設者やその後継者たちは、国連のもとで国際的な制度を作りそれを発展させてきました。そしてそれは今日の国連システムの全体を形作っています。国連システムで取り上げられる議題は、平和と安全保障から文化遺産、軍縮から麻薬の密売、HIV/エイズから環境保護まであらゆる分野を含んでいます。

このように国連は、グローバル化が加速するなかで増えている地球規模の問題に取り組む際に、ますます中心的な役割を担っています。昨年9月11日の出来事以来、国際的な流れはこの国連の役割をより大きなものにし、国連の枠組みで行われる国際社会の努力により大きな影響力を与えてきました。私は以下の2つの重要な点からこの変化を考えてみたいと思います。

第一に、国連は国家間の合意の形成や団結した共通の行動を通してそのユニークな力を確立し、強化してきました。そして今、このような世界レベルでの多国間協力は、国際社会がテロに立ち向かうために重要である、と再認識されています。

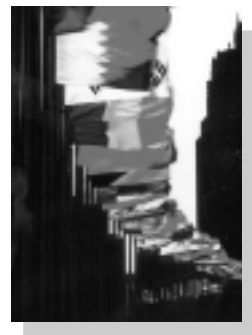
9月11日を境に、国連は加盟国の総意に基づき一連の行動をとることができました。つまり、私たちはテロ攻撃に対して迅速で確固たる方法で

非難を行い、テロ行為を支える財源を阻むための行動をとり、アフガニスタンへ国際治安支援部隊 (ISAF) の派遣を認め、アフガニスタンの人々への人道支援を増強し、さらには現地の復興を推進するために国連アフガニスタン支援団 (UNAMA) を設置しました。同時に、国際社会はもっと根本的なレベルでテロと闘う努力をすることが求められています。それはテロ防止に関するさまざまな国連の包括的な条約を見れば明らかです。

第二に、安全保障の概念が近年の国際関係をより正確に反映するようになってきました。「新しい安全保障」や「人間の安全保障」といった概念は、平和や安全の問題により包括的に対処すべく発展し広く議論されてきたものです。9月11日の出来事は、安全保障に関わる問題を包括的なアプローチで捉えることを私たちに改めて認識させました。軍事的な防衛だけでは安全は維持できない、という主張が立証されたのです。様々な国際的・国内的な要素が世界のあらゆる地域での平和と安全に密接に関連しているということが明らかになってきています。今、国連システムでは安全保障理事会をはじめ、総会、経済社会理事会、その他多くの機関が国際の平和と安全を推進すると同時に、それらは各々の安全保障上の関心事に積極的に取り組んでいます。

この新しい流れは国連の枠組みで総会を強化することに貢献しています。国連憲章で総会は世界中のあらゆる問題を話し合う場として位置づけられているにもかかわらず、過去、総会の無力さが何度も指摘されてきました。2000年のミレニアム・サミットで採択されたミレニアム宣言はこの事実を取り上げ、国連の最高の審議機関、政策決定機関、代表機関としての総会の中心的な地位を再確認しました。

国連広報担当事務次長に シャシ・タルーア氏



コフィー・アナン国連事務総長は、6月1日、シャシ・タルーア氏 (インド) を広報担当事務次長に任命することを発表しました。タルーア氏は2001年1月以来、事務次長補レベルである広報局長代行の職務を果たしてきました。

1989年から1996年には、冷戦の終結を迎えて国連の平和維持活動がかつてなく拡大・進展する中で、平和維持活動担当事務次長の特別補佐を務め、旧ユーゴスラビアでの国連平和維持活動において重責を果たしました。

1998年1月、タルーア氏は、スイスのダボスで開かれた世界経済フォーラムで「明日の世界的リーダー」の1人に選ばれました。また、英連邦諸国の作家を対象とした Commonwealth Writers' Prize をはじめ、ジャーナリズムと文学のいくつかの賞を贈られています。

タルーア氏は1956年ロンドン生まれ。インドとアメリカで教育を受け、タフツ大学で2つの修士号を取得したあと、同大学フレッチャー法・外交部で博士号を取得。アメリカのピュージェット・サウンド大学から国際問題文学博士の名誉称号を受けています。

8月1日(木)からはじまるUNギャラリーの新しい展示は「国連ポスター展～よりよい世界のために～」です。この展示は2000年12月、ニューヨークの国連本部で初公開されて以来、パリ、ジュネーブ、オスロ、ウィーン、ソウルなど世界8カ国を巡回して大好評を博しています。その「国連ポスター展」が現在、日本にやってきました。

東京のみでの展示という当初のスケジュールを変更して、より多くの方々に楽しんでいただこうと、各地での巡回展示を実施中です。5月21日、福岡市のアクロス福岡・アトリウムでスタートした国連ポスター展は初夏のさわやかな光の中で、大勢の通行人の目を楽しませました。そして2週間の展示の後、海を渡って下関市へと移動。会場となった海峡メッセ下関・グローバルサロンで、近くのみかひ保育園の園児13人によるゆかた姿での温かい出迎えを受けました。

国連ポスター展は今後、神戸での展示を経て東京に到着します。夏休みには国際色あふれるポスターでいっぱい UN ギャラリーへ是非お越しください。



「アメリカ、子どもたちを祝う」(国連児童基金<UNICEF>設立40周年記念ポスター)



(上) 個性あふれるポスターの数々に思わず時を忘れ…【アクロス福岡・アトリウムにて】

(左) さあ、国連ポスター展の始まりです！【海峡メッセ・グローバルサロンにて】

今後の展示スケジュール

ひょうご国際プラザ 交流ギャラリー

2002年7月1日(月)～7月26日(金)

日、祝祭日は休館

午前9時～午後8時(土曜日は午後5時まで)

問い合わせ(財)兵庫県国際交流協会企画課

Tel:078-230-3260

UNギャラリー (UNハウス1、2階)

2002年8月1日(木)～9月20日(金)

土日、祝祭日および国連の休日は休館

午前10時～午後5時30分



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UNハウス8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic@untokyo.jp